



成田エリア新聞

発行再開のお知らせ

3月11日、衝撃の大震災からまもなく20日が過ぎようとしています。この間、今も所在の分からない肉親、搜索のニュースや拡幅する原発事故関連のニュースに日本中が不安と悲しみ、驚きをもって過ごしてきました。

一方、復興に向けた人々の確かな足音も聞こえてきました。これほどの大惨事に見舞われながらも一歩を踏み出せる、その勇気はどこから生まれるのでしょうか。人と人の繋がりがこそ「大丈夫」、「頑張れる」という勇気となるのでしょうか。ただ、ただ、その決意と行動に敬意を表するばかりです。

「成田エリア新聞」は、物資の節約、電力の節約と

成田の人は温かい... 成田国際高卒業生が募金活動



3月24日、成田国際高校を卒業した生徒たちが中心となり、東日本大震災への義援金を募る活動をJR成田駅西口で行いました。

発案は小池秀美さん(18)。松戸国際高校に通う友人が募金活動を行ったことを聞き、自分たちにもできるのではなかろうかと思ったことがきっかけでした。その友人が募金活動のやり方や許可の取り方などを教えてもらったところ、次々に手が上がり、約50人ほどに。さらに1、2学年上の卒業生にも輪が広がりました。当番表を作成し順番に駅前に立ちました。当番以外の時間でも、バイトの時間や30分などの隙に飛び入り活動する生徒も多数いたります。

JR成田駅西口で募金活動を行った成田国際高校の卒業生たち

帰りたい、でも帰れない... 福島避難者へ自主的に怒り

★成田市には5世帯が避難成田市では、3月18日から、サウンドハウス・スポーツセンターで福島県からの避難者の受け入れを開始しています(29日現在6世帯20名)。

当初は、1次避難所ということでマットを敷いた部屋と毛布、シャワー、給湯設備を提供する受け入れ計画でしたが、「単の湯」さんや「スカイウェイカントリークラブ」さんの大浴場提供や、成田ユネスコ協会婦人部の皆さんなどによる夕食提供が始まっています。担当の成田市災害対策本部では、市職員2名を配置し、24時間対応で避難生活を不自由なく過ごせるよう避難者の皆さんを見守ってくれています。

いわき市から夫と息子さんの3人で避難されてきた

き、自分たちにもできるのではなかろうかと思ったことがきっかけでした。その友人が募金活動のやり方や許可の取り方などを教えてもらったところ、次々に手が上がり、約50人ほどに。さらに1、2学年上の卒業生にも輪が広がりました。当番表を作成し順番に駅前に立ちました。当番以外の時間でも、バイトの時間や30分などの隙に飛び入り活動する生徒も多数いたります。

被災地のために、始めた活動でしたが、思わぬ嬉しい副産物がありました。それは「成田の人たちの温かさを感じられたこと」。

出勤する時に募金してくれ

た人が帰宅時にもまた募金してくれたり、外見はちょっと怖そうなり外見がたくさん募金してくれたり、小さな子どもが「お父さん、募金しようよ」と親の足を止めてくれたり、「年代問わず、たくさんの方が募金してくださいました」。中にはこんなエピソードも、「小学校1・2年くらいの子がリュックを背負った女の子が、しばらくジーンズと私達の活動を見ていたんです。だいが経ってからおもむろにリュックを下ろして100円玉を取り出し、募金箱に入れてくれました。『これでお菓子買えなくなっちゃった』と言いつつ、すーっとお金の日本赤十字社を通して被災地に届けられました。

また、「被災地の方を思うと同時に、募金活動をしていて私達のこどもで気づいてくださる方もたくさんいて、。『寒いのにありがとう』『お疲れ様』と声をかけてくれるだけで、駅前のドラッグストアで携帯カイロを買って差し入れてくれたり、暖かい飲み物やお菓子を持ってきてくれる人もいたと思います。人の温かみをたくさん感じました。」

こうして5日間で集まった義援金は245万913円。次世代を担う若者たちの行動により集められた成田の人々の温かな心と義援金、日本赤十字社を通して被災地に届けられました。

では、ごなにも異常は認められませんでした。現在福祉センターにある2つの置部屋に分かれて生活されています。

受け入れ当初から、富里市役所職員も夜間の当直及び土・日・祝日の日直を2名交代で対応しています。また、センターの浴場は週に3日しか使用できないため、他の日は市の要請を受けた「湯郷ななえ」が入浴を無償提供しています。

取材日は、避難者の中で病院勤務の方が要請を受けて地元福島に戻っていました。送り届けた方の話によると、現地はまだとても戻って生活できる状態ではないとのこと。避難者の中には学校に通うお子さんもおり、市では4月から富里の学校で受け入れる準備も整えています。

施設管理担当の富里市社会福祉協議会・片貝勝也主任は「福島の方は我慢強い。他にもっと醜い状況の方がいるおつしや。市民の方からも『避難者の方にお手伝いできることはありませんか?』とお問い合わせをいただきますが、今のところボランティアコーディネーターが避難者の方に聞き取りをして対応しています。今日では原発30km圏内にも自主避難指示が出たので、避難者ももっと増えるのではないかと不安そうに話されていました。みなさん、自宅は損壊していないので、帰りたい、けれども帰れないという状況。不自由な避難生活が長期化してしまうので、この先...と避難者の皆さんの不安を代弁していました。

富里市では福祉センターで、6家族13人の方を受け入れています(3月25日現在)。

3月17日の午後を受け入れを発表したところ、その日のうちに福島県のいわき市と富岡町から16人の方が避難されてきました。

いすれも近隣に親族や知人がいる方で、被ばく検査環境がよく、ありがたいです。

避難所は、暖房があり、環境がよく、ありがたいです。

「大震災・原発事故に思うこと」「今、わたしにできること」「被災地へのメッセージ」など、投稿をお寄せ下さい。

『得とく☆クーポン』は、『オールカラー版』です!

4/1発行

ホテルや地元の店舗、ミュージアムなどを掲載

『得とく☆クーポン』は、当社取扱新聞をご愛読の皆様に無料でお配りするお得なクーポン冊子です。

期限内なら何度でも使えるクーポン!

「成田エリア友の会」加盟店でクーポンを見せると、お得なサービスが受けられます!

今回の東日本大震災の影響で当面の営業時間等に変更のあるお店がございます

- クーポンを見せることで、お得なサービスを受けられます。
- お店に行きたいお店をチェック! お気に入りのクーポンを見つけたら、切りとってサイフに入れておこう!
- お店に行きたいお店に行き、サービスを受けよう!
- お店の人にクーポンを見せればOK!

クーポンは何度でも使えます! 見せたらサイフにしまっぺね!

おわり